海外の話題

中国、建国 60 周年の自信

農林中央金庫　北京駐在員事務所長　　稲垣　雅人

2009 年 10 月 1 日、中華人民共和国は建国 60 周年を迎え、天安門広場と北京のメインストリート長安街を中心に軍事パレードや晩会が華やかに催された。これに先立って 9 月中に 2 回演習が行われ、その度に大規模な交通規制が敷かれて緊張感がみなぎっていたが、無事催事も終了し、今は穏やかな雰囲気に包まれている。日本ではＮＨＫ以外あまり大きく扱われなかったようだが、当地では相当の盛り上がりを見せていた。特に晩会で披露された「歌舞表演」は、やはり張芸謀の演出だったがオリンピックのそれを凌ぐ絢爛さと精緻さで、素直に感動を覚えた。

この 10 年間の中国の成長は特にめざましい。1999 年に 8 兆 9,677 億元（≒1 兆 831 億ドル）だった名目 GDP は、08 年には 30 兆 670 億元（≒4 兆 3,992 億ドル）となった。今年も実質ベースで 8%成長はほぼ確実とみられている。一方、日本に目を向けると、99 年に 497.6 兆円（≒4 兆 3,678 億ドル）だった名目 GDP は、08 年でも 507.6 兆円　（≒4 兆 9,103 億ドル）にとどまった。今年こそ辛うじて日本は世界第二位の座を守ると思われるが、近い将来中国にその座を奪われることは間違いないだろう。

最近中国の日本に対する報道・態度が微妙に変化している。かつての批判的・敵対的な報道が影を潜め、非常に冷静かつ客観的な見方をし始めているように思える。政権交代を報じたときもそうだった。その裏には、今の中国の自信・余裕がみてとれる。第 2 次大戦後急速な復興を果たし、常にアジア諸国の先頭を走り続けてきた日本。しかし、気がつけば中国が背後から津波のように押し寄せ、呑み込まれんばかりの勢いだ。

7 月、金融関係の有識者を募って成長著しい中西部の 3 都市(長沙・重慶・西安)と周辺農村部を視察してきた。これらの都市はいずれもＧＤＰ成長率が 20%を超えており、周辺農村部の都市化も急激に進んでいる地域だ。各地とも高速道路網が整備され、モータリゼーションが進展した結果、都市と都市・都市と農村の時間距離が格段に短縮し、物流が急速に発達しているという印象を受けた。また沿海部に比べ外国との貿易が少なく、金融危機の影響も軽微だった。1998 年に長沙市に進出した某日系百貨店の話では、この 10 年間で道路工事などのインフラ整備が進んで長沙市の商圏が拡大し、競合他社の進出が続く中(10 年間で 2 倍)、売上げは約 3 倍、客単価も 2 倍に上昇したとのこと。金融危機直後、客単価が若干下がったものの、今年 1 月からは回復しているという。

環境問題・貧富格差など数多くの矛盾を孕みながらも、着実な成長を遂げる中国。最近は上海株価指数の騰落が日本を含む他のアジア市場に影響を与えている。還暦を迎え、ますます元気満々目が離せない存在になっている。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます